

# 設楽発掘通信

No.10  
平成27年  
6月号

## 川向東貝津遺跡の 発掘調査が始まりました

今年度から設楽地区の発掘調査を担当することになりました樋上昇と申します。

私の班で調査する遺跡は、川向東貝津遺跡・大栗遺跡・滝瀬遺跡・大名倉丸山遺跡の四遺跡です。

すでに川向東貝津遺跡は発掘調査が始まっており、五月の最終週から重機での表土はぎをおこない、六月初旬からは作業員さんによる遺構検出作業と、みつかった遺構の掘削作業をしているところです。

この遺跡は平成二十二年度にも発掘調査がおこなわれており、縄文時代後期初頭の竪穴建物にとまなうとみられる埋甕がみつかっています。

今年度の調査でも、早くも表土はぎの段階で縄文時代草創期（今から一万年以上前）の可能性をもつ大型の剥片石器や、縄文時代中期頃（今から約五千年ほど前）の土器片を確認しています。

七月上旬にはちょうど見頃になりますので、七月四日の土曜日午前十一時から、**現地で地元説明会を開催する予定です。**  
私たちの発掘調査の成果を地元の皆さまにご覧いただける日を今から楽しみにしております。

（愛知県埋蔵文化財センター 樋上昇）

### 川向東貝津遺跡地元説明会 会場のご案内

7月4日（土）午前11時から、発掘現場で開催予定です。

お車でのご来跡の際は、設楽大橋西詰付近までお越し下さい。当日、係りの者が駐車場をご案内いたします。

\*開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課（電話 0567-67-4163）、

鈴木正貴携帯（080-1571-4982）、あるいはホームページ（<http://www.maibun.com>）をご覧ください。





### 笹平遺跡の発掘調査

笹平遺跡は、設案町小松地区に所在し、境川左岸に展開する河岸段丘上に立地しています。これまで、主に縄文時代の遺物が採集される場所として知られており、町内にあります奥三河郷土館では、他遺跡の遺物と共に笹平遺跡で採集された遺物を見ることが出来ます。

調査は、五月中旬より重機による表土掘削を開始し（写真2）、六月より人力にて本格的に遺構を探す作業を開始したところです。平坦部において部分的に遺物包含層が残っており、縄文土器や石器などの遺物が数点見つかったことから、どんな遺構が見つかるのか、今から期待に胸が膨らむばかりです。また、すでに見つかったりしている遺物の中で特筆すべきものとして「石棒」があります。縄文時代にみられる磨製石器の一種で、男根を模した呪術・祭祀に関連したいわゆる儀礼用具と考えられているものです。小型のものから超大型のものまで、様々な大きさがありますが、今回は大型に分類される石棒が二点見つかりました。一点は現代の畑作業で出てきた石を集積した箇所の中から見つかり（写真3・4）、長さ約三四・五cm、欠損はないようです。もう一点は地表面で見つかったもので（写真5）、長さ約一三・五cmを測り、こちらは頭部のみの破片になります。いずれも石材は白色の安山岩もしくは凝灰岩と思われませんが、前者は花崗岩の可能性も考えられます。今後調査が進むにつれて、新たに住居跡などの遺構に伴ったり、あるいは当時の人々が使用していた状態で出土するということもあるかもしれません。

余談になりますが、最初の石棒が見つかった日の朝、私が調査区内を歩いていると、ガサガサという物音と共に、長さ一m程の蛇が出てきました。幸い蛇の方が逃げて行ってくれたのですが、その逃げた先というのが石棒の見つかった集石の中でした。作業時はいつ蛇が飛び出してくるか警戒しながら石を崩していたのですが、結局蛇は出てこなく、代わりに石棒が見つかったという、まるでお告げのような、何とも神秘的な体験をしたのでした・・・今後調査成果はもちろんのこと、こんな裏話も紹介できたらと思っています。

（株式会社二友組 鷺坂有吾）



写真2 表土掘削風景



写真4 石棒1出土状況



写真3 石棒1が見つかった集石



写真5 石棒2出土状況

### 川向東貝津遺跡の発掘調査

川向東貝津遺跡は設案大橋の南西に位置し、南側には境川が流れています。上流には、現在調査が行われている笹平遺跡や今年度中に調査予定の滝瀬遺跡などがあります。周辺には縄文時代の遺跡が多数存在し、本遺跡も平成二十二年度の調査で縄文時代後期初頭の埋蔵が出土しています。

本遺跡のある場所は、明治時代後半～昭和初期ごろに石垣が築かれていくつもの平坦面が造成されたと考えられます。その後植林が行われるようになり、現在に至ります。

調査は五月下旬に開始し、八月末まで行う予定です。まだ始まったばかりですが、少しずつ遺跡の様子が見えてきています。まず、平坦面を造成した際に斜面を削平したことが分かりました（写真6）。それにも関わらず幸運なこと、竪穴建物らしき遺構や縄文時代の埋蔵の可能性のある土器などが見つっています（写真7）。さらに、石器や土器の破片も出土しているので、これらの調査で縄文時代の集落の姿が見られるかもしれません。

（株式会社二友組 岩瀬大輔）



写真6 石垣除去後



写真7 埋蔵出土状況

### 範囲確認調査も行っています

先月第九号でお知らせしたように、今年度も十二遺跡を対象に範囲確認調査を行います。この範囲確認調査は左図ではStep2の段階で、本調査を行う上で重要な情報を得ることを目的としています。

調査は五月十八日から開始し、川向地区の大栗遺跡・万瀬遺跡、そして大名倉地区の大名倉遺跡・日掛遺跡へと進めています。大栗遺跡では、剥片石器（写真8右）と熱を受けた礫（写真8左）が出土し、ヒトの活動した痕跡を確認することができました。（愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁）



写真8 大栗遺跡出土 石器

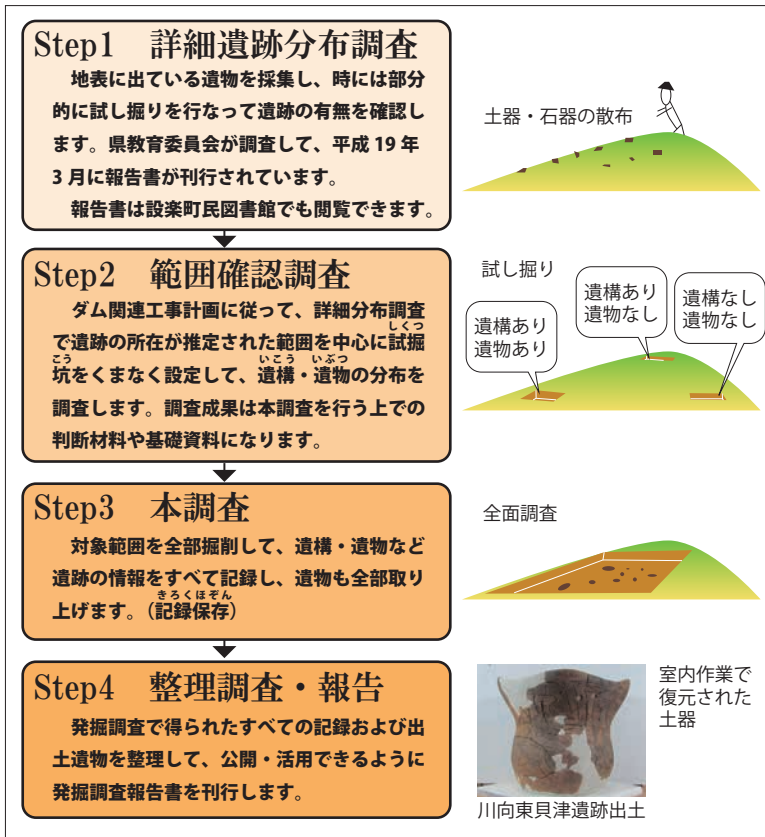


図 設案ダム関連 埋蔵文化財調査の流れ



## 笹平遺跡、発掘調査の始まりは・・・

本調査を行う五遺跡のうち、まず川向東貝津遺跡と笹平遺跡の調査が始まりました。そのうちの笹平遺跡の調査を例に報告します。

笹平遺跡は、昨年度調査を行った万瀬遺跡の境川対岸に位置し、調査を行う面積は七〇五〇㎡と今年度の調査の中では最大規模です。先のページでも紹介されていますが、準備作業中には石棒がほぼ完全な形で見つかり、その場について関係者みんながびつくりしました。

ところで発掘調査の始まりについてはご存知でしょうか？「どうして、ここが遺跡だとわかったのか？」という質問は見学会などを行ったときに良く聞かれます。今回の笹平遺跡の本格的な発掘調査（本調査と呼んでいます）の前に、計画段階として、分布調査（地面に遺物や遺構が見えないか観察して調査する）や、二〇〇六年度、二〇〇九年度の二度にわたって範囲確認調査（試し掘りを行って地層や遺物の広がり調べる）といった調査を行い、遺跡の範囲や、調査にかかる日数や予算の目安をつけました。これらの予備的な調査の結果では、縄文時代の土器や石器が出土していたので、本格的な縄文時代の遺跡であると予想されています。また、「設楽発掘通信第二号」では「笹平遺跡採集・岩偶岩版類」も紹介しています。そちらも是非ごらんください。

さて、いよいよ本調査の開始ですが、木の伐採や草刈りを行った後、重機（バックホー）を用いて、遺構や遺物の無い部分を除去します。（写真9）除去した土の下からは、まだまだ少量ですが縄文土器が出土し始めました。（写真10）

写真11では土の堆積を示しています。黄色の砂は遺跡の基盤層となりますが、その上には黒い土があり、場所によっては三〇cmの厚みがあります。土器や石器は主に黒い土の層から出土します。このような遺物を含む土の層を「包含層」と呼びます。この包含層を掘りながら遺物を探し、同時に遺構（住居や穴が地面に掘り込まれた跡）を探す作業を行います。遺構は、まず見つかった状態を、写真や図面に記録した上で、ようやく掘る作業に入ります。

六月からはいよいよ作業員さんが入った作業が始まっています。来月以降の設楽発掘通信では遺構の発見についてご報告できるかと思えます。お楽しみに。（愛知県埋蔵文化財センター 鈴木恵介）



写真9 笹平遺跡 重機（バックホー）を使った表土掘削



写真11 土の堆積する様子



写真10 包含層出土縄文土器

# 設楽発掘通信

No.10 平成27年6月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県富田市長ケ須町野方802の24

電話 (0567)67-4161【管理課】4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)



印刷・協力

株式会社二友組